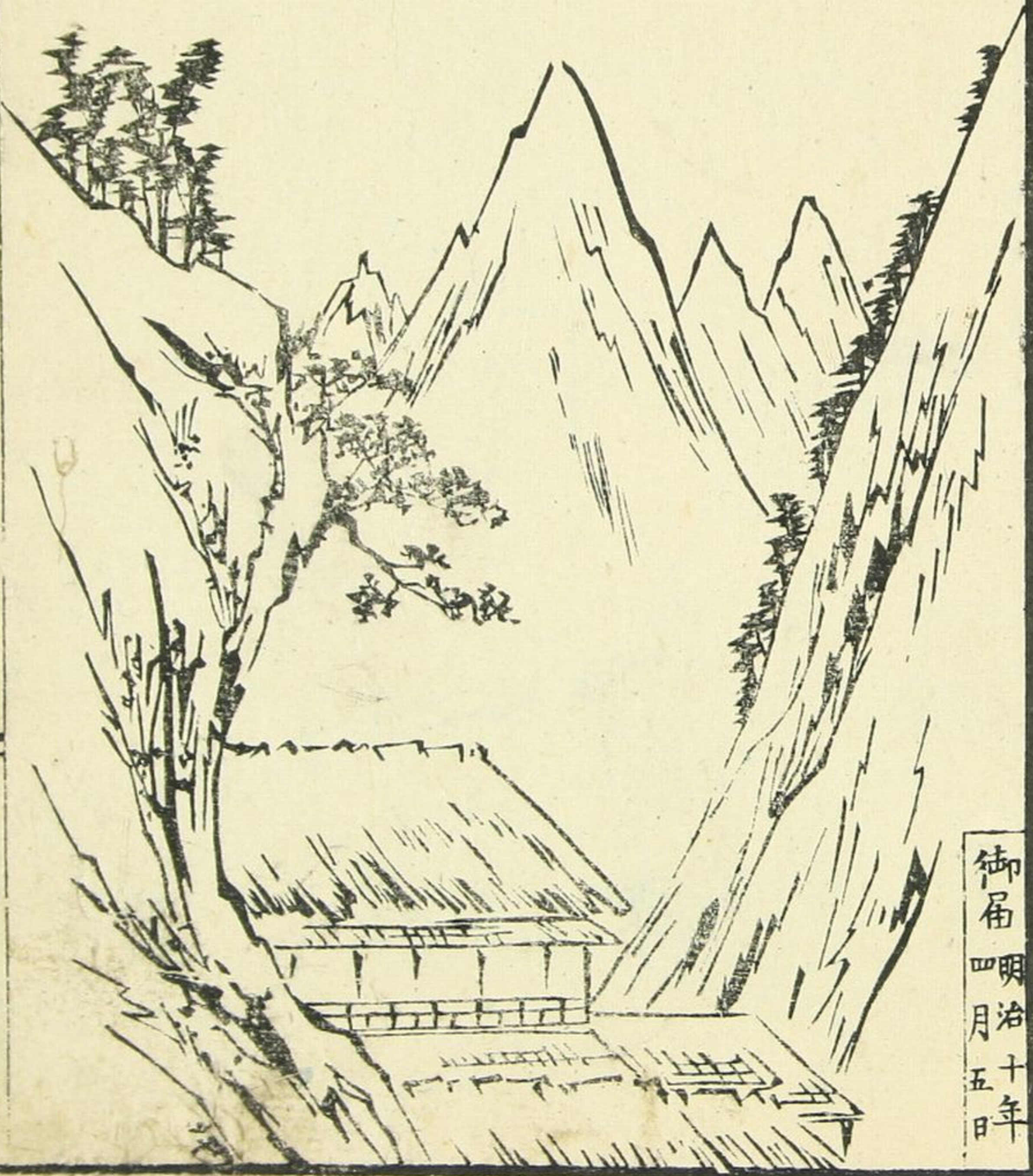




AK29
6

川尻の温泉驛の図

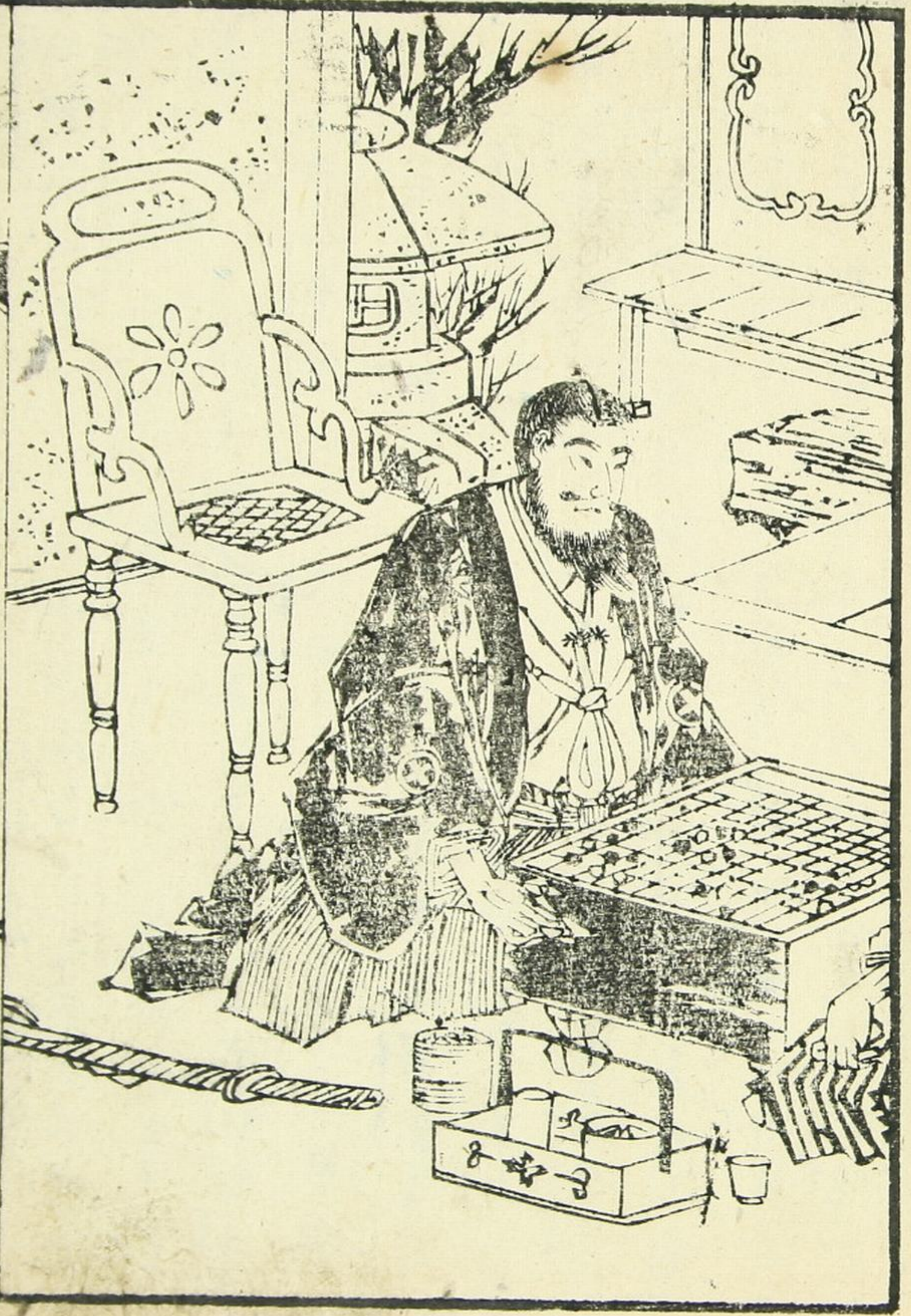


御届
明治
四月
五日

長見
第
六
号

010190510137

48-5882



まごう
西郷隆盛
川尻あて
遊戯の因

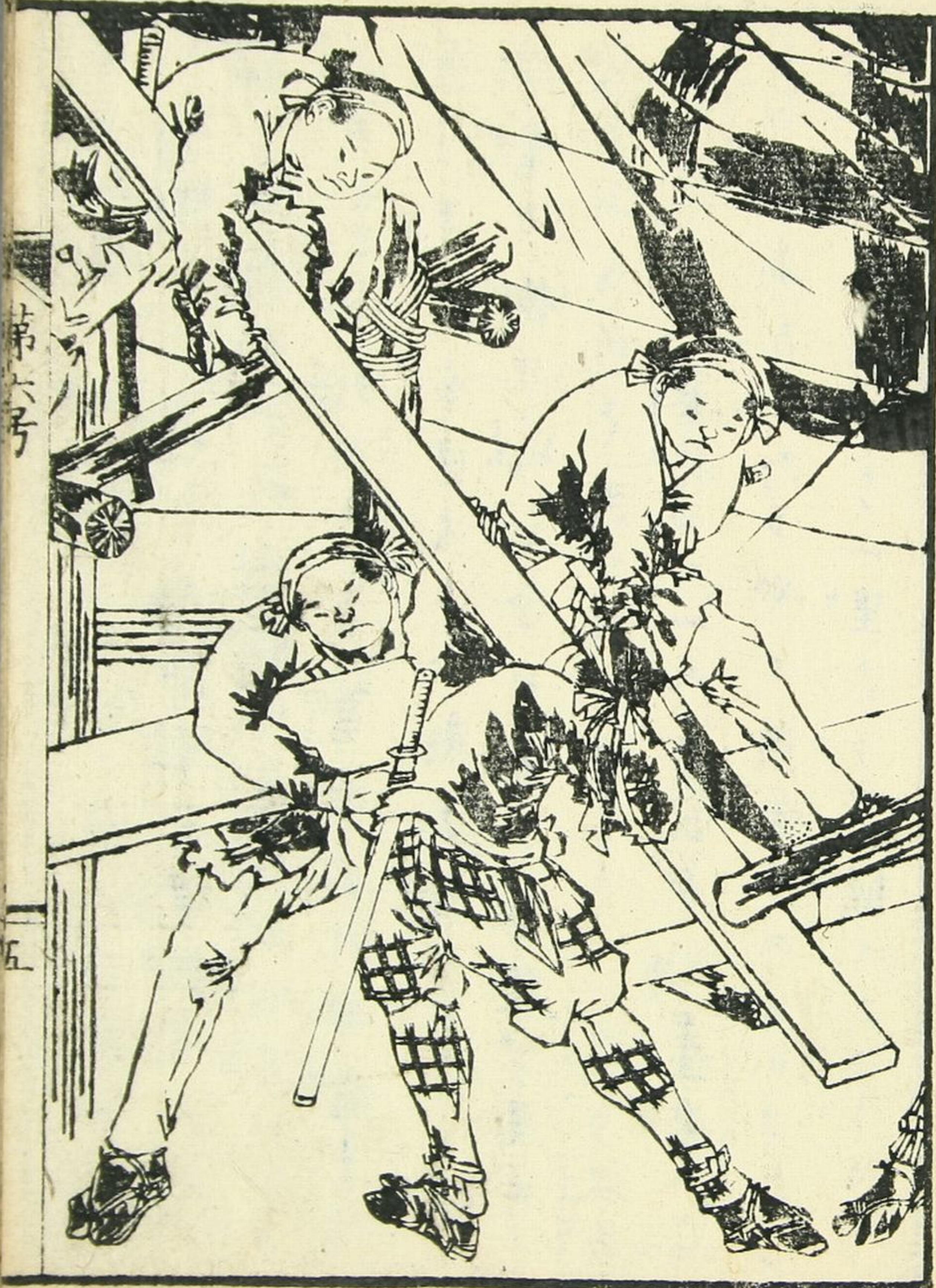


抑熊本の城下の人口十万余より長さ二里余
横一里半あり名古屋より次々一大都會あり
熊子木の人戸百余軒も在るとあり
下より一里余あり植木も熊本より二里余
人戸三四百軒もある可なり宿駅あり
らんとするも菊池山鹿高瀬などありせめ来る
敵とふせぐる一要地より昔時加藤清正
も陣山と名付け廣野と切り下げしものと見
え左右とも二間ほど切り岸の地より左右
せりく桜樹を植え付けたり田原坂を

植木と木の葉のりひびよ存る坂より隨ぶん
要害の地なり茶屋五六軒あり熊本より
四里余坂の長さ七丁両側の小山はくさ
りり坂下より小川あり木の葉も人戸四
百余熊本より五里よりろよ木の葉嶽の
岩險ありまふ川と帯び高瀬の人戸千
三百余熊本より六里半あり細川若狭守
が城下より有名の一市街あり大軍旅容
ろよ差はくさ坂の下より小村より熊本
より八里余南の関より人戸五百をり熊本

より十里余をこぶる良驛あり高橋の人戸
二百八十をりを熊本より一里半白川と沼
ふ小島を人戸四百七十をり熊本より
二里肥後第一の大港あり川尻を人戸四百
余熊本より二里半あつた地より熊本までハ
大道あり一ツの險地あり當時西郷ハあつた
とろろへ出張を山鹿を人戸千百余熊本よ
り七里あつた地は温泉あり高瀬川一名菊地
川の船路を取ると便あり菊地武重の旧
城ありとあり大津を人戸四百をり

本より五里あつたより東北よりつりつと險阻
ありあり阿蘇町ありびよ小倉あり
○三月十三日山鹿吉次乃兩所ハ休戦勅使ハ
鹿見島へ着後暴徒が鹿見島を人帰られぬ
やうに道と断つと在り田原坂の賊將を相
野利秋とりり勅使を鹿見島で都合より事
済ませると十三日の晩は神戸へ向け出
帆の知らせあり長崎より高崎侍従番長ハ
將士へ慰勞のたまり御用と今月九



第六号

五



暴徒等
とら
とら
聖と築
く
凶

第六号

五

日よ肥後へ向けと出帆さし是たり熊本縣令
の心得をみ採り内務權大書記官の石井
省一郎君がされ同縣令富岡敬明君ハ谷少
將とぞのふ先づより籠城され非常ニ防
禦の手術を法とされ熊本城ハ籠らまじ
鎮臺の抜け道を今月五日暴徒が見出し
夜ふふのめとあの抜け道より入り双方
戦ふ一ハ暴徒が一人も出で鎮臺兵ニ座
らる一ふありたるやと熊本でのういさやう
西郷を熊本より一里むり隔てたるところ

うとく毎日温泉とてつろ又多碁とら風流
ふ遊び居るとりふ十四日福岡よりの知らせ
ハ拂曉ニ部署が整へ植木口が攻撃し
右翼前面より賊の壘が數ヶ所乗りとり
たり賊ハ敗走し街道をふせがて對戦を
せむ官軍のいれたるひまはく盛んなれば賊の
死傷のなまらぐ多く殊ニ前面の一壘ハ數十人
の賊の守り居たるが残り殺し此より午
前十時より官軍を數ヶ所ニ壘をきづいた死
戦と為まといり昨夜勅使を船より上京せ

ら進たり島津父子より最初より関係より上
京を實効と立てたる上よまきしとの事と當
地より居たり福岡老公を鹿見島へ残し又
花隈より知らせよ警部の手負へ諸方惟
典と加藤部補と戦死が四人なりお手負が
十三人鹿見島その外の巡查をその地へ廻
しとも差遣うるとある旨参事より沙汰の
ありしより十五日の報よ熊本の景況を賊
が所々ふたむろし焚出しハ数ヶ所より此
頃を金穀がけられたる暴威うらむかきあり人

夫を遣へとも賃銭をよへざれば最早人望を
うりるひ人民を暴徒のためぬ飢渴ふらる
しと且その乱暴強ふせよため有志の面々
を數十人カとゆいせるとあり昨今を官軍
よりより出さ銘丸を熊本近在のりのみ賃
銭をりりしと格をせたれど火茶の二風をか
うるべし
○今月十一日出りて或る陸軍士官へ送られ
たる手紙
二月二十六日肥後の国南の関驛へ着後

同日當驛よりかよる五里をり先高瀬驛よりかいつく開戦我が兵も逐衛鎮臺合せし三大隊敵兵もおよそ四千余人又當驛より南のふみゆり山鹿驛在り之をへ三大隊をど發せ同日兩所戦争の景況もまことに猛烈なり高瀬の官軍大勝利なり暴徒も死傷甚捨て逃走し山鹿も官兵もとしく苦戦し敗り然るにも位置残去らば同日砲兵を高瀬驛へ向け六門山鹿驛へ向け二門出

く二十七日高瀬より戦争此日午前官軍苦戦午後より勝利その後二十八日探りの為め發砲せしは賊應ぜず今日休戦小生羨ハ南の関本營を護衛し一たび同驛に停陣無事官軍も能く義務を知り戦ふや妙あり一歩死進まず寸歩も退らば故に彼も鹿見島熊本の暴徒なれを接戦より事多し故に死傷も多し當今官軍の死傷およそ兩日の戦争より



木の葉
を
ま
く
る
官
軍
の
決
戦
の
因
づ

葉
を
ま
く
る
官
軍
の
決
戦
の
因
づ

百五十余名あり彼をいあれよ倍せと云
餘を勝戦の上云々

○十六日の報よ木の葉の小野田よりの知
らせよ十五日午前六時五十分よ横合より
不意よ賊がちをひ来り
巡査も進撃して
激戦一警部が一人手負同トく即死が一人
巡査の即死が四人手負が十人余で此戦
うひる午後四時まご止まら替って新
の巡査が刀と抜る切り込と暫時より賊
壘と乗っ取り警部その外手負が七八人又

黒田参軍を四千余人を引率し長崎より八
代人向はる筈まら賊將篠原國幹ハ官軍の
為りらら死まら一鹿見島らて葬礼らりらと
大分縣の知らせよ大槻二重峠の賊兵ハ二
百人内外で二重峠へ胸壁を築つた堅く
守り襲ひ来る色まらまら豊後と肥後の
国ざらひ五ヶ所花ヶ野村まら賊が三十
人出沒まらと在りまら警視隊の先鋒ハ已
よ内の牧へ繰り込と各地へ斥候とつり
相去る事ららぶらよ一里ららまら本陣とサカ

